

令和 8 年度上牧町総合計画等審議会（第 1 回） 会議録

【日 時】令和 8 年 7 月 1 日（水）9 時 30 分～11 時 45 分

【出席者】（50 音順）

（委員：19 名）

東委員、石丸委員、市口委員、植村委員、小川委員、河野委員、杉浦委員、高橋委員、
田村委員、辻本委員、鶴谷委員、中山委員、西村委員、東林委員、
福井晶崇委員、福井希実委員、真柴委員、宮崎委員、森田委員

（事務局：総務部企画財政課）

中本部長、辻村課長、土井課長補佐、高野係長、中村
ジャパン総研

【欠席者】1 名

【傍聴人】0 名

【議事概要】

1 開会

- ・ 19 名の出席であるため、会が成立していることの説明
- ・ 会議資料確認

2 委嘱状交付

- ・ 阪本町長から代表者として中山委員に委嘱状を交付
- ・ 阪本町長あいさつ

3 委員紹介

- ・ 委員、事務局紹介

4 会長及び副会長の選出

- ・ 事務局案により、会長に中山委員、副会長に鶴谷委員を選出
- ・ 中山会長あいさつ
- ・ 阪本町長から中山会長へ諮問書を交付
（阪本町長退席）

5 議題

（1）基本構想案について

ジャパン総研：＜資料 1「上牧町第 6 次総合計画の策定」について説明＞

ジャパン総研：＜資料 2「上牧町第 6 次総合計画【基本構想（案）】」について説明＞

中山会長：只今の資料 1 と資料 2 について説明があった。まずは資料 1 について議論していただくがご質問等はいかがか。

辻本委員：2 ページの「町民ワーキング会議等の運営支援」とあるが、この中に参加者は「令和 7 年度に 16 歳以上になる方」とある。この 16 歳に設定した理由はなぜか。

また、その下の「(4) 職員参画」について、アンケートの回収率が 82.5% となっているが、町職員であればもう少し回答率は高くてもよかったのではないかと思っている。

ジャパン総研：町民ワーキング会議を 16 歳に設定したことについて、今回できる限り幅広い年齢層にご意見を伺いたかった。学生向けの調査として、町内の学校に向けた小・中学生アンケートを実施したが、今回実施する他のアンケート調査の対象者を確認したときに、高校生が入っていなかったため、16 歳以上と設定した。

「(4) 職員参画」のアンケート回答率については、おそらく体調不良や登庁されていなかった方もいて 100%には達しなかったと考えられる。ただ、多くの方に回答いただいたことは確かなので、このご意見はしっかりと受け止めたうえで計画を作っていく。今後もこういった機会があれば、もっと回収率を高めるような工夫をしっかりとって、職員参画を一層推進していく必要があると考える。

高橋委員：「(3) 住民参画」のアンケートについて、「①町民アンケート」と「②結婚・出産・子育てアンケート」は、回収率が低いと思ったが、一般的にこういったアンケートを行った時はどれくらいの回収率があれば、住民の意見を集約できたとなるのか。

ジャパン総研：今回のアンケート調査結果が、妥当な結果になっているかどうかというのは、回収率よりも回収数を見て考えることが多い。上牧町の人口規模であると、だいたい 400 件程度あれば調査結果としてはある程度妥当である。

「①町民アンケート」については、回収数が 1,000 件を超えていたため、ある程度上牧町としての実態を反映できる調査になったと思う。ただ、「②結婚・出産・子育てアンケート」については、60 件というのは若干少ないのはご指摘のとおりである。参考として、他のまちで行ったアンケートの回収率の状況は、この町民アンケートでは年齢問わず全体に対して送る調査の場合であると、回答率はだいたい 35~40%くらいで、今回の回収率は 37.7%であるため、平均的な回収率である。それに対して結婚・出産・子育てアンケートは、比較的若い方、特に日中活動されている方を対象とした調査ということもあって、回収率は 20%程度が多い。そういった意味では、回収率が 24.0%は他市との平均と大きな差はない。今回の調査で得られた回答数については一般的な結果であった。

宮崎委員：調査対象数が 3,000 件や 250 件というのは、人口 18,000 人に対して少なくはないのか。もう少し多くてもよかったのではないかな。

ジャパン総研：調査配布数が多いほうがいいというのはご指摘のとおりである。やはりコスト的な問題や、有効回収数を確保するために最低どれくらい配布すべきか、さらにそこから詳細な分析をするためにどれだけの配布数が必要なのかということから逆算すると、基本的には上牧町くらいの人口規模であると 2,000 件くらいの配布数である。そういった意味では、3,000 件は配布数としては多めだと思う。ただ、多ければ多いほどいいのはご指摘のとおりなので、そのあたりはコスト的なところとの兼ね合いの結果、3,000 件になったと認識をしていただけるとありがたい。

辻本委員：全国的に人口減少となってきた。上牧町は将来的に 14,000 人を維持するということであるが、他市町村も同じような状況の中、上牧町として特に差別化しているような項目等があれば教えていただきたい。

ジャパン総研：上牧町については、ベッタウン的な性格を有しているまちかと思っている。人口構造的な特徴としては、高齢者の転入が比較的多い。そういったところを考えると高齢者の方も最期まで生き生きと暮らせるようなまちづ

くりが一つのポイントとなる。町民ワーキング会議でも意見として多かったのが、コンパクトなまちの中に生活に必要な機能がしっかりと揃っているといったところであった。近年では、まちの中に十分な病院がない、買い物できる場所がない、そういったところで暮らしにくいから外に出て行こうといった傾向があるのが、近年の大部分のまちの特徴である。上牧町は、まちの機能がしっかりと維持されているという特徴があるので、ここを維持しつつ、なおかつ住民の方のニーズを捉えてブラッシュアップしていくことが大事である。今回の基本構想や総合戦略についても、まずは住みやすさをもっと高めていくといったところを第一に考えて計画を作っていきたいと考えている。

辻本委員 : 高齢者の人口が増えるのは、上牧町には老人ホームが多いことが影響しているかと考えられる。結婚などの関係でも上牧町は一番進んでいる。そこまではいいのだが、その後若い人たちが抜けていき高齢者だけが増えていく。4 ページの中に「ワット・ビット連携」といったあまり知らないような言葉が出てきているが、これに対して上牧町においての具体的な施策はあるのか。

事務局 : こちらについては国の動向ということで、日本全体の大きな話となり、上牧町においてはデータセンターを作るといったことについては今のところ話は出ていない。

辻本委員 : これは国の施策の一部ということで、これを行うと上牧町に補助金が出てくるかと思うが金額等はわかるのか。

事務局 : 国の補助金というのは、取り組む事業に対しての補助金となる。まずは、事業を行う、行わないというところからで、事業を行わなくても補助金をもらえるということではない。例えば、データセンターを作るという取組を行った時に、幾分か国から補助金が出るといったこともあるが、何もしなくてもお金がもらえるというものではない。

森田委員 : 総合計画は、今後 10 年間の計画ということであるが、上牧町は、昔は人口が 4,000 人ぐらいで、多い時は 25,000 人ほどになっていた。そこまで急速に発達したわけであるが、人口減少に伴って、旧大字の人口が極端に減っている。例えば、新町地域だと来年小学校に入るこどもが 1 人もいない。そのために何年か前から、こども会といった組織の解散がかなり進んでいる。大字でできない場合は、まちでまとめて参加できるような組織を新たに考えてみてはどうか。現在、村の掃除については各自治会で行ってもらっているが、いつまでもできるとは考えられない。そのあたりも基本構想の中で何かしら触れていただくということは可能かどうか。現在ある里道等も維持管理ができないということで、上牧町だけではなく日本全国でそうである。そういった実情を踏まえて、従来からあるような行事や里道等の管理方法などを、何かしら示していただけないかと思っている。

中山会長 : 場合によっては基本計画レベルになるかもしれないが、基本構想の時に答えていただくこととする。他に資料 1 についていかがか。私から 3 ページの今後の審議会の予定を見てみると、本日が第 1 回目、第 2 回目と第 3 回目で基本計画案についての議論がある。アンケートやワーキングをしているが、その結果が審議会に出てくるといったことは特に予定されていないのか。

- ジャパン総研：今回の資料として出していないが、次回基本計画の内容を審議する際に、参考資料として添付することは可能である。準備させていただく。
- 中山会長：先程も回収率について触れていたが、おそらく皆さんも町民の方がどのようなことを考えているのか関心があると思う。あまり時間をかけることは難しいかもしれないが、是非出していただければと思う。
- 高橋委員：会長がおっしゃったように、私も皆さんがどのようなことを考えているのか知りたい。先程の質問の中で、ワーキング会議で16歳以上ということであったが、ほとんど応募がないかと思う。高校生は忙しいのでワーキング会議に参加して話をしたいというまでの熱意はないのではないかと。私もこどもが2人いるが高校生になって初めて上牧町を外から見ることができた。それまでは当たり前のように上牧町で育って、上牧町でずっと足りていたのが、まずは電車に乗り外に行く、上牧町に駅がない、外に行って上牧町の評価を友達から聞いたりすると、上牧町はこのように思われていると感じる。自分のまちがこのようなまちであると初めて知ることになる。また、その後の進路について考える一番大事な時期に、自分は上牧町から大学へ通うのか、就職するのか、また遠くに行きたいのか、本当に上牧町について自分で考えている若い世代が、何を求めているのかという意見は重要だと思う。
- 中山会長：資料2について、先程、質問が出されていたので先にそれに対する回答をお願いします。
- ジャパン総研：ご意見としていただいていたのは、地域コミュニティを維持させるためにどうすべきかといった方策や課題を記載できないかということであったかと思う。基本構想は全体的な話がメインになるので、個別具体的なところまでは踏み込めない段階ではある。いただいた意見については、基本計画の部分で記載できるか検討したいと考えている。
- 田村委員：基本計画をこれから議論していくうえで、第5次総合計画で色々と計画を立てて、基本計画の目標があって残課題があってと、前の整理とつながりと、今回の新たな施策や計画が見えるようにしてほしい。前の状況を知らない中で、このように議論が発展していく、施策が発展していく、あるいは新たに生まれたことなど、もう少し理解が深まるのではないかと思う。これから基本計画の構成を読んだ中では、ぼんやりと理解できるが、やはり深く理解しようと思うと、第5次での評価を踏まえて基本計画の中身を検討できればより深い理解や意見が出るのではないかと。これから何回かに分けて基本計画を作る時に、そのあたりを考慮していただければと思う。
- ジャパン総研：当社は今回からの策定となる。前回との接続点は薄いところではあるが、行政内部の評価・検証はさせていただいている。次に基本計画をお示しする時も、課題や今後の方針をお示したうえで、次の計画の内容をお示しすることを想定している。そこでまた資料を見ていただき、気になるところのご指摘やご提案をいただけるとありがたい。
- 中山会長：今のご指摘はそのとおりである。今回、基本構想の骨子が出ている。基本計画も構成は出ているが、前回とどう変わっているのかということがわからない。前はこういった構成であったが今回はこのように変えるがその理由など。基本計画では目標も設定していたと思うが、目標が十分達成できたからなど、何かそれなりに理由があって構成を変えることになる。今回はなぜこのような構成になっているのかということがわかりにくいので

で、できれば前回の構成と比較できるようなものを示していただけるとより議論しやすい。希望であるが、資料として前回の基本計画の冊子を委員の皆様配布したほうが良いと思う。

事務局 : 前回の冊子を用意させていただく。前回との比較に関してはこういった仕方がいいのか相談させていただく。

田村委員 : 10年間の計画を5年ずつに分ける時に、企業であれば中長期計画があり、3年くらいの短期計画があり、1年ごとの当面何をするのかという分解をするイメージがある。この基本計画をまとめる時に一つの命題があって、それを5年に分けた時のイメージ、それをさらに5年細分化した時にどういう取組が具体的に進んでいくのかということが見えるといいのではないか。それを職員の方が引き取ってもらえるかと思うが、大きな計画を2つに割ったくらいでいくと、何となく自分の仕事と直結しない、今年何をすべきなのかとわからない状態で計画だけが打ちあがるというようなイメージを持っている。くどいようだが、大きなとりまとめは大事であるが、それを半分に分けた時の5合目のイメージと当面何をするかという喫緊の取組とで分解できれば具体的に進んでいくイメージができる。この審議会の受け持ちではなく、それは次回の年度計画をする時にしっかりとやるということになるかもしれないが、できるだけ何となく進んでいくイメージができるようなまとめ方ができれば良い計画になると思う。

ジャパン総研 : 10年という長期的な視点と5年後ごとの中期的な視点で、抽象的なところもあり、実際運用される職員の方々にとってはわかりにくいのではないかというご指摘であったと思う。そこについては上牧町に関わらず、全てのまちの総合計画の課題である。それを具体化するためにどうしていくのかということが要検討の課題となると思う。補足的なことを言うと、この総合計画以外にも行政はたくさんの計画、もっと個別具体的な計画がある。総合計画はそれを束ねるというか、参照してほしい全体的な方針を定める計画となる。正直いうと、若干抽象的なところも出てくると思うが、上牧町としてここを目指していきたいとしっかりとメッセージを打ち出せるような計画にしていきたい。具体化できるところはしっかりと具体化して、できるだけ多くの方に理解してもらえるような構成を心がけていく。

宮崎委員 : 年度ごとには検証結果報告書を出されているということでホームページに記載があった。一番気になっているのが総合計画で、一体、上牧町はどこに向かっているのか。計画の中身を見ても、ありきたりの内容である。私が思ったのは、残念ながら交通機関があまり良くない。何もないというか、何もないのいいところで、もっと夫婦で共稼ぎではなく、どちらかという片方の収入で生活するような家庭を目指すのが、このまちには合っているのではないか。このまま他のまちと同じような方向性でいくのはしんどいのではないか。そういった方向の考え方はできないのか。

ジャパン総研 : 総合計画というものが住民の方に対して提供するサービスを、極力もれることなくといった側面がある。総合計画本体としては、総花的というか似たり寄ったりなところは正直あらざるを得ないと思う。ただ、もう少し上牧町の色や特徴を強く押し出せるような見せ方、事業を盛り込めないかといったところについては、これ以降基本計画を作る中でももう少し検討していきたい。

- 田村委員 : 選ばれる地方という項目があるが、上牧町というのは、この場では主役である。まず選ばれるというのは、東京に対して関西があり、関西の中でも奈良県があり、奈良県の次に上牧町ではなく私は北葛城郡かと思う。王寺の駅で降りてベッタウンとなって、その全体が選ばれた中でここがいいと。どこと競争するのか、どこに対して選ばれるのかということがないと具体的な施策につながりにくいのではないかと。上牧町単独で解決していく課題と、北葛城郡として郡として協働で何か一緒になって取り組むイメージがないと選ばれるということは自己満足だけになってしまうのではないかと。具体的なことをしていくためにはどこと手を組んで、どこと競争していくのかというイメージが必要である。
- ジャパン総研 : 上牧町はベッタウン的な特性があるけれども、地域の産業的なところが課題なので、働く場については他のまちに任せて、その代わり住む場は上牧町という役割分担を近隣などと連携しながら進めていく必要があるといった意見であったかと思う。そういう広域連携的な視点も今後大事になってくるので、そのあたりは近隣と連携した取組を進めているところではあるので、それもしっかり計画の中に落とし込んでいく。それを充実させていき、上牧町が東京や他のまちに負けないような魅力あるまちづくりにつなげていくことを考えていく必要はある。一つの方策として近隣と連携したほうがいいのではないかとのご意見として受け止めさせていただく。
- 中山会長 : 今のご指摘でいうと、国のほうの地方制度調査会では連携のあり方について議論されている。一つは、自治体の人口がどんどん減っていく中で、専門的な仕事を担っていくことが難しくなる。その場合、県との連携をどうするのか、そういった形で人口減少が進む中で、県と市町村の連携、地域の周辺の市町村との連携をどうしていくのかという議論に入っている。この総合計画が決着つくまでに、地方制度調査会から答申がでるのか難しいかもしれないが、そのあたりも睨みながら検討できればと考える。
- 福井(昌)委員 : 計画を見ていると施策をするに対して予算案が全くないが、そういうものはこれから作っていくのか。
- 事務局 : 総合計画については、どちらかというと町全体で動いている予算の話とイコールとなる。現状は、これを挙げたので必ず行うというものではなく、まずは目指すべき目標を決めて、そこに向かって必要な取組を立てて、そこに向けて限られた財源の中でどれだけの事業が効率よくできるのかということを考えていく。今の時点では予算を決めることは一旦置いていただき、まずは目標となる総合計画の目指すべきまちを考えていただくことが今の状態となる。
- 河野委員 : 私は町内で専門的な事業をしている事業者である。具体的な施策として町内の事業者が、町内の人を採用した時に補助金を出してくれるなど、例えば、町内の事業者が町内で新規事業を起こす時に行政と一緒に行動すると補助金を出してくれるなどということが施策としてあればいいと思う。子育て世代のところでは、私自身も1歳児のこどもを育てているので、どうしても出かけるとなるとトライアルやドンキホーテが精一杯である。公園も行くが長時間遊べる公園もない。そういったところも作っていくという具体的施策がほしい。住民として感じることは、外から流入してくるような仕組みや施策がない。我々、休みの日になるとこどもを連れてアルルや郡山

イオンに行ってしまうので、そこでお金を落としているので、我々のお金を落とす場所を作っていく施策も作ってほしい。

事務局 : 町内の事業の雇用に関していうと、今回の会議以降にはなるが、分野ごとに協議していく中で、そういった町内の事業者が活性化するような施策について議論していただきたい。公園の整備に関しても、上牧町には街区公園ばかりで、みんなが集まることができる公園がない。公園を中心としたまちづくりというのも他市町村でもあるので、そこが活発になれば人が集まる場所ができて、店が出店してというように好循環が生まれるのではないかという考えもあるので、そちらも議論していただければと思う。上牧町の中では日常の買い物や生活をするうえでは便利なまちである。娯楽の部分でも、他の市町村にはない温泉があるのでもう少し PR が足りない部分もあるかと思うので、総合計画の中でこういった形で対外的に打ち出していけるのか示していければと考えている。

市口委員 : PTA の関連で上牧町に対して聞こえてくる意見が多いのだが、上牧というマンションみたいな学校で建ったところなど、中学校が 1 つになり新しくなったという意見が、近隣の市町村のみならず県内のいろいろな方から声かけしていただいている。高校生の意見という話もあったが、小学校・中学校とこれからを担っていくこともたちについて、前半の 5 年の間に教育大綱や教育振興基本計画もあるので、3 年後、学校適正化協議会で協議してきた小学校の統合も含まれているかと思うので、そのあたりについても具体的に検討に対しても携われるといいと思っている。

事務局 : 学校の統廃合に関しては、この 4 月から上牧中学校と上牧第二中学校が統合して新しい中学校として運営が始まっている。今のご意見は小学校の今後のことかと思う。教育大綱の中では、統廃合のことには触れないでということではないが、まずはそこではなくあくまで学校運営の中でどういった教育を目指すかということを中心に教育大綱として挙げていくことになる。また、今後の小学校がどうなるのかという話については別のところでの審議となるため、ここは切り分けて考えていただければと思う。ただ、最終的には学校の目指すところは教育大綱や教育振興基本計画にもつながる。学校教育をどういったところを目指したいのかということも、こちらの総合計画とリンクさせていただき審議いただきたい。

西村委員 : 将来展望人口のところを見ているが、令和 7 年が 20,885 人というところから令和 32 年では 14,001 人で 5,000~6,000 人くらい人口が減少すると数値化されている。私は三郷町に住んでおり、空き家が多い。5,000~6,000 人くらい上牧町から減るとなると、さらに空き家が増えるであろうと目に見えて明らかである。社会インフラとして人口が減っても上牧町としてこれだけは絶対にしなければならないなど、選別も必要になってくるのではないかと。10 年間と長期にわたる計画を立てる中で、明らかに人口が減ることになれば、これだけというものが何かないと、選ばれることや住民の方が安心して住めないということも想定される。何か旗頭みたいなものがあるといいのではないかと。

事務局 : 将来展望人口が 14,000 人くらいということで、これに関して、上牧町は元々は 4,000 人程度の人口のまちであった。それが西大和ニュータウンの開発や様々な開発で急激に人口が伸びたことが現実としてある。その入られた方々の世代がとても多い。人口ピラミッドでいうと、高齢の世代の

方々が人口の大きな割合を占めている。その方々が少しずつ年を重ねている。最近では、ラスパ西大和の周辺やペガサスホールの周辺で住宅開発があったおかげで、ある程度人口が若者世代や子育て世代にも流入していただいている。住む場所があれば入っていただける。そういった中で、高度経済成長期に入って来られた方々が少しずつ年を重ねて、残念ではあるが亡くなっておられる。今の近々に入って来られた方がまた中心となるようなまちになってくるかと思う。そうなった時に、上牧町の今までの24,000人という規模がイレギュラーだとなってくると、今ちょうど子育て世代の方々が住んでいく中で、今のまま最低でも現状維持できるかというところが命題となってくる。上牧町においては、買い物が便利、また残念ながら駅がない、そういったところではあるが、住んでいただくためには中の方々に、上牧町は良いということを近隣の方々に宣伝していただけるような施策が必要であると考えている。今上牧町に住んでいる方に良いと言ってももらえなければ、なかなか周りにも伝えてもらうこともできない。近隣の市町村との競争ではないがそういったところも大事である。総合計画の中で住んでおられる方々の満足度を上げられるような施策が、先程委員がおっしゃった施策になってくるかと思う。しっかりと総合計画に盛り込もうえて考えていきたい。

高橋委員 : 私はこの会議に参加するのは久しぶりで、おそらく地方創生1.0の時以来であったかと思う。その時の施策の中で、何年か後に人口が上向くという表を見て本当なのか、何を根拠に人口が上向くことを予想しているのか、そういう表を見た。それが一番印象に残っており、こどもの数が増えていくという表があったと記憶している。それがこういうことだったのかと今思っている。地方創生2.0では「人口減少を正面から受け止め」とあり、あれはその時からそうだったのではないかといった印象である。あの時にもう少し正面から受け止めて施策していけばよかったのではないかと。私はその時からとても疑問で、増やしていくのではなくて上牧町が最低限何を大事にすべきなのかというところを見つめていけばよかったのではないかと。その時に私ももっと発言すべきだったかと思うが、その反省も含めて、もちろん発展はしていかなければならないが今ある生活をどう守っていくのか。私の息子が町外の高校に行った時に、上牧町はどこなのか、上牧町って初めて聞いた、息子と知り合って上牧町を知ったと言われたそうでショックを受けて帰ってきたことがある。娘は駅のすぐ近くで勤めているが、会社の方から上牧町からどうやって通勤しているのか聞かれることが多いそうだ。私からすると同じ奈良県で、電車で15分なので、どちらかというに近い場所に勤めていると思っていたが、会社の方からは上牧町に住んでいるなら早く帰るように気遣ってもらえることがあるようで衝撃的であった。それだけ上牧町は知られていないが、話をしているとドンキホーテがあるなど、いろいろなお店もあり病院も近くにあるということで、生活利便性が高い。意外と住みやすいと認識されるところがある。そういったところを大事にしていくには、何を守らなくてはならないのか考えてほしい。一番足りないのは交通の便であると思うが、上牧町ではないが王寺駅や五位堂駅もあり、近鉄もある。今更、鉄道を誘致するのは難しい。こどもが上牧中学校に通うようになった保護者の方から、遠くなったことは別に構わないが、道が非常に危ないということであった。歩道が歩道で

はない、自転車で通うようになっても自転車道が整備されていないということで怖いということを保護者から聞いている。高齢者の方も近くの歩道で転倒されたりなどあるので、そういうところをしっかりと整備していただきたい。公共交通機関というよりも日々の生活の歩きやすさ、自転車が通りやすいようにインフラにも目を向けてほしい。

事務局 : 守るべきところは何かについて、上牧町の地名に関してなかなか奈良県内で目立っていない。例えば、高速道路のインターチェンジや駅があれば地名が目につくが、上牧町は住むところがメインになっているので目立たないところがある。しかしながら、どのようにして知っていただくかについては、住んでいる方が周りの方に上牧町のことをPRしてくださるようなまちにしていけないといけない。交通に関しては、駅はないが線路には囲まれている。畠田駅や王寺駅、大輪田駅、五位堂駅といったいろいろな駅にはアクセスできるので、上牧町単体で見ると交通の便がよくないように感じるが、他の市町村の面積の大きな市でいうと、これほど恵まれた場所はないのではないかと考えている。駅前5分の場所に住んでいる方は少ないと思う。実際に、大きな市であれば駅は複数あったとしても駅まで5～10分で行ける場所に住んでいる方は一部である。そんな中で上牧町の中に駅がないというイメージが払拭できないでいる。実際そうであるが、住んでみて確かに不便であると感じるところもあるが良いところもあるので、そういったところをもっとPRできればと考えている。道やバリアフリーについては、日々の生活で安心して暮らせるまちがベッタタウンには必要なので、基本計画の方でご意見をいただければと思う。

東委員 : 9ページの「まちづくりへの取組」でアンケート調査の結果の図がある。先程の話とも関連するが、「住み続けたい」と思っている方が8割以上、「住みやすい」と思っている方が7割以上について、そういう結果というのは上牧町としてはいいのではないかと私は捉えたのだが、他市町村のアンケート調査結果がわかるのであれば教えていただきたい。

ジャパン総研 : 一概に上牧町が高い低いと言にくいところではある。しかし、回答いただいた方の7～8割以上に肯定的な回答をしていただけているということは、委員のご指摘のとおり良い結果であると思っている。これは上牧町が評価されているという受け止め方をしていいたかと思う。

中山会長 : またアンケート結果を出していただき改めて議論できればと思う。時間的に可能であれば、年齢とクロス集計ができればと思う。おそらく年齢が高くなればなるほど「住み続けたい」という方が割合として当然増えてくる。問題となるのは20～30代くらいの方がどう考えているのか。そこで「住み続けたい」という方が多ければいいかと思うが、全体として「住み続けたい」という方が8割以上というのは数字的には良い。年齢的に見てどうなのか、偏りがいいのか、そのあたりがわかるともう一つ議論ができるのではないかと。時間があれば色々資料を出していただければと思う。

(2) 人口推計について

ジャパン総研 : <資料3「上牧町人口推計分析」について説明>

中山会長 : 人口推計について何かご意見・ご質問はありますか。

鶴谷副会長 : おそらく今説明されたのは、次回以降考えるうえでの基本的な人口の状況を踏まえて、各施策に反映してほしいという形であるかと思う。その

中で専門的な話もあるかもしれないが、7ページの昼間の人口が増加傾向にあるのは、どう理解すべきか。ベットタウンであれば朝・夜に人がいて昼は人がいないという状況であるが、それが上がってきているというのは商業施設等の効果が出ていると理解したらいいのか。

ジャパン総研：おそらく鶴谷副会長のご指摘のとおりかと思っている。就業人口自体は減少傾向にはある。町内の商業施設が増加して町外からの流入が増えていることが要因となっている。

鶴谷副会長：役場としてはいかがか。そのような考えということではよろしいか。

事務局：商業施設が充実している分、昼間に他市町村から来ていただいている認識である。

鶴谷副会長：もう1点は、8ページの「転入元・転出先の上位10市町」の表について、他市のデータを見る時には基本的に周りのまちとプラスして大阪は比較的多い。大阪に出て行く、入ってくるといったことがあるが、また周りのまちへ出る、入る。上牧町は出て行くということが多い。この表を見ると、転出先のところが天理市・田原本町・桜井市と比較的東部のほうへみんな出て行っている。入ってくるのは周辺のところから入ってくるという形である。香芝市は入ってくるほうが上回っている。これはどう理解したらよいか。ちょっと特異なデータであると思う。他市町も見てもらって比較してもらくと、上牧町のイメージが変わってきている感じがしないでもないというのが私の実感である。仕事に引っ張られて動いている、戸建ての家を建てたいから動いているのではないかと考えていたがちょっと違った。転出・転入のバランスが違うというのは驚いた。そのあたりは細かいデータになるのであまり見ていないが、周りのまちとの比較は必要になってくるかと思うがいかがか。

ジャパン総研：ご指摘いただいたあたりについては、あまり気づいていなかったポイントである。特に、田原本町や天理市から流れて来ている理由というのは、大きな特徴になるかと思う。そこはもう少し詳細に分析をしていく。新型コロナウイルス感染症の影響以降といったところもあるので、それ以前と比較してみても変更の違いがないかも見てみると、改めて上牧町の特徴が出てくるかもしれない。そのあたりは分析を進めていく。

鶴谷副会長：経年的な変化というのはあるかもしれないが、5年ごとに取っているデータもあるかと思うので、そのあたり詳細に見ていただければと思う。昔のまちのイメージと今のまちのイメージが違ってきているのかもしれない。それが社会増などで、意外と人口が踏みとどまってきているなど、生まれる方が少なくて亡くなられる方が多いというのはどこもそうであるが、踏みとどまっているというイメージが出てくるとなると考えなければならない。外国人の方が増えているというのもあるので、そのあたりも影響しているとも思うが、それは若干の話であって全体像として人々が東へ動いていると考えたと、どうやって理解したらいいのかということもあるので分析をお願いする。

辻本委員：上牧町は老人ホームがたくさんある。人口の中でも65歳以上の高齢者数が高い。これは老人ホームがあるからだと考えられる。老人ホームを抜いた人口数が必要ではないか。先程の香芝市からの転入が多いことについて、老人ホームへの入居者が転入として増えていると理解することができないのではないか。転入も山手のほうに老人ホームが多い。研修な

どで天理方面と奈良の山間部を訪問させてもらう。逆に平坦部には老人ホームが少ない。人口分析してもらえれば、ある程度出てくるのではないかと思う。

事務局 : おっしゃるとおり社会増減がプラスマイナスゼロとなっており、ゼロではないが均衡がとれているようには見える。しかし、施設に入るために転入してきて、その方が自然減で亡くなっていくというケースも、おそらく含まれている。ただ、一個人をずっと追いかけるようなデータのとり方がなかなかできないため、現状は一部の施設に入られている方の状況はわかるが、その方がどこから転入してきて、どこへ転出していったかまでは追うことができないのが現状である。

宮崎委員 : 私は大阪市で勤めている。大阪からこちらへ来る方は値段が安いからである。私の友人も何人か来ている。子育て世代が入ってきていて、そのあたりが多くなっているのではないかと感じる。香芝市から転入されるのは、上牧町は便利な割に地価が安いのではないかと思う。香芝市は隣なので、そういうところで転入が多いのかと考えられる。

真柴委員 : 最近思うことは、桜ヶ丘地域は世代交代があり、人口的には少しずつ上がってきていると感じている。しかし、地域によってはこどもの新入生がいななど、地域としても差がある。そのあたりの地域別の人口増加も出していただくと、その課題の解決につながるのではないか。上牧第二小学校区であるが、その地域には UR がある。私の子どもたちが小学校に通っている時には、そこにはたくさんの子どもがいた。若い世代の方がたくさん入っていたが、今は空き家もあって高齢者や外国人の方がたくさん住んでいる。UR は民間ではあるが官民連携して人口増加のための施策を考えていくことも必要ではないか。先程、事務局の方が住む場所があればという言葉がとても気になっていた。その住む場所を今ある建物をうまくリフォームなどをして、若い世代の方が住めるような工夫も他の地域でされていると聞いている。官民連携して人口を増やす工夫や、また空き家問題もたくさんあると聞いている。空き家は個人の所有物ではあるが、民間の企業などと共同で借り入れるなども考えていくのもいいのではないか。住むところがあればという言葉が一番引っかかっていたが、そこに解決策もあるような気もしたので、まずはどこの地域が一番減っているのか、そのために減っているところの課題解決をしていくことも大事であると考えている。

事務局 : 地域別人口であれば、こちらでも追っているのでお示しすることはできる。これまで UR さんとも協議を重ねており、今も協議は続いている。UR さんにも空き家があるということで、なかなか今の生活様式に合った造りになっていないことが苦しいことと、またエレベーターがなく 1~3 階までは埋まるが高層階になると階段だけなので UR さんも苦慮されているということは聞いている。また協議をしながら、若者世代の方が住んでいただけるような案を UR さんから引き出せればと思いながら協議を進めている。また空き家対策についても、人口減少の中でこういった形でうまく作用するのかといったところでは空き家対策にかかっているのではないかと考えている。住まわれている方が高齢のため施設に入られても、いつかは家に戻ってきたいということで、そのままとなり流

- 通が進まないということも聞く。難しいがそのあたりも考えていく必要がある。
- 宮崎委員 : 子育て世代の増加について、共働きではない家庭が多いのではないかな。私の近所などでも、上牧町は地価も安く、子育てもしやすいので父親が大阪へ勤めに行っているパターンが多いかなと思う。
- 辻本委員 : そのとおりである。南上牧では、田んぼを潰して 50 坪 33 戸新しい住宅ができた。朝夕見ていると、幼稚園に通っている方が多く、保育所が少ない。保育所に通っている方が少ないということも共稼ぎの家庭が少ないのかなと思う。そのとおりの分析であると思う。
- 河野委員 : 話が遡ってしまうかもしれないが、老人ホームに入る方は基本的に住民票を移すのか。移さないとカウントされないのか。先程の話で、家を残したままだとそこに住民票が残っているのか。
- 事務局 : 住所を移しているところもあるれば移していないところもある。実際に、正確な数字の把握は難しいが特定の場所に関しては数字がわかっている。そういったところの数字を見ている限りでは、かなり減ってきている。ただ、他に新しく施設ができてきているので、そういうところは入られている方もいるが一概に全てが全て住所を移しているのかというパターンなのかどうなのかを把握するのは難しい。
- 河野委員 : 減ってきているというのは老人ホームが行き先になっている方ということなのか。
- 事務局 : 把握するのは難しい。
- 真柴委員 : 14 ページの分析のところ、ファミリー層や高齢者、外国人転入の増加が見られるということで、せっかく増加傾向という明るい統計の部分で、またそこを評価することも大事かなと思う。新たなことをするのも大事かなと思うが、こちらに目を向けることも大事である。上牧町は、社会福祉協議会や色々な子育て世代に対しての取組がされている。そういう取組がなかなか住民の方や他の地域の方への発信がなく、転入されてから知る方が多い。せっかく良い取組をされているので、そこを発信することでファミリー層など、人口を増やすということでは今あることをより発信していき、より強化していくことも簡単にできる施策だと考える。
- 事務局 : 子育て施策に関しては担当部署も頑張っている。上牧町においては、子育てガイドブックやわかりやすい資料も用意している。そういったものをどういったところで知っていただくのか、それをきっかけに上牧町につながられるかについては課題となっている。そういったところも総合計画の中で考えていきたい。
- 中山会長 : 将来人口について、私個人の感想でいうと、かなり控えめな目標である。基本構想のところでも今後の推計の根拠を出しているが、45 年までに合計特殊出生率 1.20 ということだが全国的に見ても非常に低い。無理矢理高い数値を設定する必要はないが、極端に人口が減ってしまう推計になってしまう。19 ページでもかなり人口が減るような確率になるかなと思う。国は 2.07 としているが、本当に 2.07 になると思っている人はいない。9 ページの上のグラフの「全国・奈良県・県内市町村の合計特殊出生率の比較」で、上牧町の 1.13 というのは 2018～2022 年までの平均ということなのか。他の地域を除くと極めて低い値である。それを

1.20 まで上げるとするのは目標としては低いのではないかと。それが実現可能性として見ているのであればそれでもいいが、そうすると現状値と目標値が大きく変わらないので、今のままを維持すればいいのかくらいのイメージになってしまう。そうすると物凄い勢いでこどもが減る。16 ページに今後の上牧町のこどもの推移が出ていたが、2025 年で 20,000 人程度であるのが、いずれのパターンでも 13,000~14,000 人で、25 年間で 3 割減る計画になってしまう。あまり高い計画を立てるのはとなるかもしれないが、社人研の人口推計と目標とする人口推計を比較したときに、ほとんど変わらない推計になってしまうと、少子化対策を充実させなくてもよかったのではということになりかねない。実際にはどのように将来人口を推計するのかは町の判断となる。合計特殊出生率 1.20 を設定するのは基本的には町の判断で構わないが、一般的なことから見ると控えめな目標な気がする。おそらくこの勢いでいくと、長期的に人口推計するとよっぽど転入者が増えたら別ですが、転入者が増えずにこれだけこどもが減ってしまうと、将来こどもを生む年齢層の女性が減るということを意味するので、長期間にわたって上牧町の人口が大幅に減っていくというような計画になるのではないかと。現実的にこのくらいが現状であるという判断であればそれでも構わないが、目標としてはかなり控えめである。検討された結果このような目標値の設定になっているかと思うが、ただ目標がこうであるからといって少子化対策が今のままでいいということは決してならない。目標を低めに設定しつつも充実した少子化対策を行っていくという考えであればいいと思う。そのあたりは気になったところである。また 7 ページの昼間人口について、説明の中でショッピングセンターができたからということであったが、ショッピングセンターができてそこで働く人が外部から来ると昼間人口が増えるかと思う。買い物に来る人は昼間人口には統計上は入らない。この数値を見てる限り、単純に見ると昼間人口そのものはあまり変わっていないが、常住人口が減ってきているので割合としては上がってきている。昼間人口があまり減っていないのは、高齢者が増えて一日家にいる人がいるからという見方になるかと思う。1.20 でいくのであれば基本構想はこれで進めていただいてもいいが、奈良県全体から見てもずっと低いままいくのかということになりかねない。

事務局 : 前回の総合計画の人口推計では、無理に人口を維持するような設定をしたことで、様々な計画において実際の運用との乖離が大きかった。今回の総合計画で 1.20 とした理由については、令和 6 年度の奈良県の合計特殊出生率が 1.19 であったので、そこに近い数字として 1.20 とした。どこを落としどころにするのかは悩んでおり、会長からいただいた意見も参考に再度検討する。ただ、合計特殊出生率が影響する数字というのは少しかかりで、人口構成がいびつな形で、今は高齢者がボリュームゾーンを占めている現状がある。社会増減でいうところのプラスマイナスゼロはいいのだが社会減がかなり多い。合計特殊出生率だけではなく、そういった現状が作用してしまい、急激な右肩下りの減少につながっている。そのあたりがピラミッドの外に出ていかない限りは、おそらくこの現象が続くであろうという認識である。少しでも努力すると

いう姿勢という部分で、合計特殊出生率の設定についてどのあたりが正しいのか再度検討する。

中山会長 : 決して無理な目標を立ててほしいということではない。ただ、町民の方からするとずっと低いままだという印象になるのではないか。低いからといって夢がないというわけではないが、誤解が生じないような内容になっていれば問題はない。

事務局 : 再度検討する。

中山会長 : それでは次回以降は基本計画という具体的なものも出てくるので、それぞれのお立場からより具体的な議論をしていただきたい。

6 その他

- ・事務局から次回の開催日時（令和8年8月20日（木）9時30分からの予定）について説明。

7 閉会

以上